

生 物 学

教 授 本 田 昂

教 授 菅 野 延 彦

教 務 員 日 比 野 康 英

◆ 原 著

1) Hibino, Y. and Sugano, N.: Endonucleolytic activities of nuclei from rat ascites hepatoma. *Biochem. Int.* **13**: 773—779, 1986.

2) 大槻俊治, 水村光男, 前田正敏, 本田 昂: 4—Biphenylacetic acid (LTC 10, 141)の生体内動態. *基礎と臨床* **20**: 477—502, 1986.

3) Tazawa K., Takemori S., Sawadaishi M., Nagase T., Kasagi T., Suzuki Y., Saito M., Kato H., Maeda M., Honda T. and Fujimaki M.: Intracellular hyperthermia for the treatment of cancer (II); Raising the high temperature with exciting submicron particles and its effects. *Progress in Hyperthermia Oncology*, 248—249, 1986.

4) Tazawa K., Kasagi T., Nagase T., Sawadaishi M., Masuyama K., Takemori S., Yoshida M., Suzuki Y., Saito M., Fujimaki M., Maeda M. and Honda T.: Serum levels, especially in the portal vein, of ^{99m}Tc -labeled OK-432-MCT emulsion administered enterally. Mechanisms of antitumor effects of OK-432. *Excerpta Medica*, 240—248, 1986.

◆ 総 説

1) 亀井哲也, 瀬戸 光, 柿下正雄, 前田正敏, 本田 昂, 越村三郎: モノクローナル抗体による腫瘍の放射免疫学的局在診断および治療への応用, *臨床免疫* **18**: 877—885, 1986.

◆ 学会報告

1) 前田正敏, 本田 昂, 田沢賢次, 藤巻雅夫: 予防的癌治療のための肝微小転移の抑制— ^3H 標識5—FU MCT emulsion の腸管吸収動態. 第45回日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

2) 亀井哲也, 本田 昂, 越村三郎: ^{125}I 標識抗 CEA モノクローナル抗体の CEA 産生腫瘍における局在—ポリクローナル抗体との比較—. 第45回日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

3) 笠木徳三, 前田正敏, 本田 昂, 田沢賢次, 藤巻雅夫: 予防的癌治療のための肝微小転移の抑制 第4報—経口の投与された OK432 MCT エマルジ

ョンの免疫学的効果について—. 第45回日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

4) 田沢賢次, 笠木徳三, 前田正敏, 本田 昂, 藤巻雅夫: 癌細胞にたいする intracellular hyperthermia の研究—500KHz 帯誘導加温による励起微小物質の高温誘発—. 第45回日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

5) 守田美雪, 庄司美樹, 本田 昂, 阪上正信: 富山におけるチェルノブイリ事故の影響. 日本放射線影響学会第29回大会, 1986, 10, 金沢.

6) 田沢賢次, 竹森 繁, 山下 蔵, 斉藤光和, 増山喜一, 中村 潔, 加藤 博, 鈴木康将, 笠木徳三, 永瀬敏明, 前田正敏, 藤巻雅夫, 本田 昂: 癌細胞にたいする intracellular hyperthermia の研究 III報: 500KHz 帯における inductive heating の特性. 第3回日本ハイパーサーミア学会, 1986, 11, 大阪.

7) 浅野 哲, 菅野延彦: ラット肝高度反復配列 DNA と細胞核 scaffold 蛋白質. 日本薬学会第106年会, 1986, 4, 千葉.

8) 日比野康英, 菅野延彦: ラット腹水型肝癌 (AH414)の細胞核内のヌクレアーゼ活性とトポイソメラーゼ活性について. 日本薬学会第106年会, 1986, 4, 千葉.

9) 益見厚子, 渡辺 渡, 菅野延彦, 前田浩明: 植物性多糖蛋白質画分 LAP1, LAP2 の抗癌性とリンパ球幼若化について. 日本薬学会第106年会, 1986, 4, 千葉.

10) 鈴木康将, 沢田石 勝, 田沢賢次, 増山喜一, 笠木徳三, 永瀬敏明, 真保 俊, 唐木芳昭, 伊藤 博, 藤巻雅夫, 菅野延彦: 大腸癌発生予防に関する研究 (第1報)—実験大腸腫瘍に対する BRM の効果—. 第86回日本外科学会, 1986, 4, 東京.

11) 小林 譲, 浅野 哲, 阿部浩之, 菅野延彦: ラット腹水型肝癌細胞の高度反復配列 DNA と H1 ヒストン. 日本薬学会北陸支部第68回例会, 1986, 6, 金沢.

12) 渡辺 渡, 益見厚子, 菅野延彦, 前田浩明: 植物性多糖蛋白質画分 LAP1 のリンパ球幼若化能について. 日本薬学会北陸支部第68回例会, 1986, 6, 金沢.

13) Suzuki, Y., Tazawa, K., Sawataishi, M., Masuyama, K., Fujimaki, M., Sugano, N. and Ochiai, H.: The effect of water-soluble fraction (LEM) from culture medium of *Lentinus edodes* mycelia on colon tumorigenesis in the rats. *Gastroenterology (OMGE)* 8th congress, 1986, 9, Sau

Paulo Brazil.

14) 小林 譲, 浅野 哲, 菅野延彦: ラット腹水型肝癌細胞核の高度反復配列 DNA と蛋白質. 第59回日本生化学会大会, 1986, 9, 大阪.

15) 日比野康英, 菅野延彦: ラット肝ヌクレオソームに結合して存在する Mg^{2+} -依存性エンドヌクレアーゼの諸性質. 第59回日本生化学会大会, 1986, 9, 大阪.

16) 菅野延彦, 益見厚子, 渡辺 渡, 前田浩明: シイタケ菌糸体培養基より得られる多糖蛋白質画分子 LAP1 の抗癌性とマイトゲン活性. 第45回日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

17) Suzuki, Y., Masuyama, K., Tazawa, K., Yamashita, I., Sawataishi, M., Kasagi, T., Yoshida, M., Nagase, T., Shinbo, T., Karaki, Y., Ochiai, H., Sugano, N. and Fujimaki, M.: Anticarcinogenic action of water-soluble fraction (LEM) from *Lentinus edodes* mycelia; IV. 第45回日本癌学会総会, 1986, 10, 札幌.

◆ その他

1) 本田 昂: チェルノブイリ原子力発電所事故による北陸地方の環境放射能調査結果について. 日本原子力産業会議第25回北陸部会, 1986, 6, 金沢.

英 語

教 授 常 木 清
講 師 野 中 慶 子
外国人教師 ジリアン S. ケイ

◆ 原 著

1) 常木清: 「何のために英語を学ぶのか」, 福井大学教育学部附属教育実践研究指導センター「紀要」第10: 133—135, 1986.

2) 野中慶子: Humanistic Approach to Foreign Language Teaching. 言語の世界, 4 巻 1 号: 85—102, 1986.

3) 野中慶子: Innovative Teacher Training Through Generating Alternatives-Toward the Communication-based Language Classroom. 東海大学外国語教育センター所報: 第 6 輯: 160—167, 1986.

4) Gillian S Kay: The English in Japanese. *English Today* No. 6: 25—26, 1986.

◆ 学会報告

1) 野中慶子: Interpretation of Communication Strategies in Oral Production. 大学英語教育

学会第25回 (1986年) 記念大会, 1986, 9, 東京.

保 健 体 育

教 授 金 子 基 之
助 教 授 小 野 寺 孝 一

◆ 原 著

1) 小野寺孝一, 金子基之, 山地啓司, 玉木興正, 梅沢弘樹, 並木孝: 降雪期が児童: 生徒の形態および体力・運動能力に与える影響. 体育の科学37: 55—58, 1987.

2) 小野寺孝一, 山地啓司, 北村潔和, 金子基之: 最大作業における心拍数の大・小が心拍オーバーシュート現象発生率に及ぼす影響. 富山医薬科大学一般教育研究紀要 8: 1—8, 1986.

3) 山地啓司, 小野寺孝一, 北村潔和, 福田明夫: 心拍数のカウント法の相違にみられる 1 分間の心拍数 (拍/分) の比較. 富山大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要 2, 39—42, 1986.

◆ 学会報告

1) 小野寺孝一, 金子基之, 山地啓司: 超音波による運動時大脳動脈血流量の測定について, 第37回日本体育学会, 1986, 11 P, 筑波.